

令和8年 8 月 6 日

派遣成果報告書

有田市議会議長 様

議員氏名 脇村 隆生

有田市議会の議員派遣に関する要綱第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

研修名	決算審査の実践ポイント
研修期間	令和8年8月3日（月）
研修場所	1 全国市町村国際文化研修所（大津） 2 市町村職員中央研修所（千葉） ③ 地方議員研究会（東京） 4 その他（ ）
研修の成果	別紙のとおり

※ 「研修の成果」は研修内容や所感などを具体的に別葉に作成して添付してください。
※ 研修先から交付される「終了証」等を添付してください。

午前 「決算のどこを見るか」

- マインドセットを大事に
 - 聞くべきことを聞く
 - 役割分担を理解する
 - 説明責任は職員側にある
- 財政には優秀な職員を配置する、なぜか
 - 市長のもつ権限は二つ
 - 予算編成・執行権
 - 人事権
 - （予算制定権、条例制定権は議会に帰属する）
 - どの自治体でも重要な三つのポスト
 - 企画・人事・財政
 - 例えば福祉等は法律で決まったことを執行しないとならないため、致命的なことになりにくい
- 専門知識を持った職員の説明に対抗するには
 - 職員が恐れること
 - 予算の否決
 - 予算案修正案の可決
 - （予算を決めることができるのは議会である）
 - おかしいものをおかしいと言えることが重要
 - 黒字でも借金が増えていたらおかしい（例えば夕張市）
 - 経常収支は全ての自治体が黒字である
- マインドセット
 - 職業的懐疑心、健全な批判精神をもつ
 - 賛成こそ質問する
 - わからないまま採決するな
 - 信用していても確認をする
 - 普段優しくしていても、議員という仮面をかぶる
- なぜ財政がわかりにくいのか
 - 予算書、決算書の構成が性質別
 - 事業別になっていないから、事業の予算がわからない
 - 予算を組む職員は事業別に見ている
 - 事業別予算を公開している自治体が増えている
 - 出力はすぐできる（システム上可能）
 - 多いからデータでもらうのがいい
 - 有田市は主要施策成果説明書で確認できる
 - 成果が数字で書いてあってわかりやすい
 - 不用額
 - 役所内で不用額を減らせということは実際行われている
 - 次年度予算が減らされるため
 - 入札差額は経費節減
 - 自治体会計の用語が独特

- 基本的な用語と読み方は覚えておいた方がいい
 - 間項目説
 - 歳入歳出
 - 債務負担行為
 - 出納整理
- 自治体会計の考え方が独特
 - 現金主義、単式簿記
 - 民間は発生主義、複式簿記
 - 現金主義の落とし穴（実質収支）
 - 繰越金も収入に入ってしまう
 - 今年度赤字でも黒字になってしまう
 - つまり今年度の収支がわからない
 - 単年度収支を見るべき＝持続可能か判断ができる
 - 借金が収入になる
 - 基金の取り崩しも収入
 - 基金の取り崩しの理由は確認すべき
- 自治体の赤字・黒字
 - 歳入歳出差し引き（形式収支）
 - 基準になる
 - 実質収支
 - 形式収支から、次年度の支出が決定しているお金を差し引いたもの
 - 単年度収支
 - 実質収支から、前年の実質収支を差し引いたもの
 - 実質単年度収支
 - 単年度収支に、基金の積み立てを加え、基金の取り崩しを差し引いたもの
- 歳入歳出の流れ
 - 歳入
 - 1/3ずつになっていると健全
 - 市税
 - 交付税・国庫支出金
 - 交際費
 - 歳出
 - 義務的経費が半分以上になると多い
 - 扶助費は老人が多くなると増える傾向がある
 - 地方交付税
 - 地域間の収入格差を是正する
 - 特別交付税は事業によってもらえるので、職員の能力差がでる
 - 税収を増やしたら交付税が減るジレンマ
 - 使い道は自由
 - 国庫支出金
 - 使い道が決まっている

- 例えば生活保護は $\frac{1}{4}$ は国が出す
 - 激甚災害は全額
- 財政調整基金
 - 取り崩しに議決は不要
 - なければ一時借入で賄うが、金利がかかる
 - 標準財政規模の10%くらいが適正
 - 積み立てが多い自治体が多い
 - コロナで国からのバラマキがあった
- 財政そのものの理解
 - 財政の1年（カレンダーを理解する）
 - 予算編成基本方針
 - 市が現状をどう捉えているかわかる
 - 数値目標が書かれていないことが多いがあつたほうがいい
- 監査と議会質疑の違い
 - 監査委員
 - 外観的監査
 - 数字の間違いチェック
 - 信憑が正しいか
 - 議会
 - 事業の適正性を見る
 - インプット（カネヒトモノ）
 - アウトプット（事業の効果）
 - 一般質問するなら
 - 期限を聞く
 - 具体的な進め方を聞く（計画）
 - 期待される効果
 - 比較した案を聞く
 - 他市でできている事と比較
 - 引用元を明示する
- 数字に弱くてもできる決算書チェック
 - 市民の代表であり、市民感覚でいいのか悪いのかを考えてOK
 - 自分のお金と思って取り組む
 - 大きい金額、前年比から変化の大きいものをまずは見る
 - 大きい金額でも、1件あたり、一回あたり、利用者1名あたりに直して考える
 - 有田市の主要施策成果説明書はこれがわかりやすい
 - 例えば何人が健診受けられて、一人いくらか
 - わからない数字は聞く
 - 市民にわかる言葉で説明してもらう

午後 「意味のない質疑からの卒業」

- 決算審査で使える質問の切り口
 - ※議員は命令権がない、首長であれば業務命令になる

※説明責任を市に押し付けるような質問をする

- 行政を動かせるような質問をする
 - 市の計画にあることを聞く
 - 国、県の方針に基づく
 - 他の市がやっていること
- 方向性
 - 誰が、何を、いつまでに
 - できない、わからないは理由を具体的に聞く

※行政は0回答を目指す、議員は回答がないのは許さない
- 質疑と質問
 - 質疑
 - 特定の議案に対する質問
 - 質問
 - なんでもできる
 - 質問調査権は議員ではなく議会が持っている
- テクニック
 - クローズドクエスチョン
 - イエス、ノーや選択肢を限ったもの
 - 確認作業ができる
 - 会話は広がらない
 - オープンクエスチョン
 - 一般的に日常やっているような質問
 - なんでも回答可能
 - 結論がでづらい
 - 委員会等ではクローズドを使いこなすのがいい
 - クローズドで使えるフレーズ
 - 説明が長い場合、自分の理解であっているか確認する
 - 認識相違ございませんか
 - 曖昧な場合は二択で確認する
 - AとBどちらですか
 - MTG終わりにはネクストアクションを確認する
 - 誰が 何を いつまでに
- 成果とコストの両面から事業を検証する
 - 決算は事業とセットでないとわからない
 - 決算書は投入金額だけしか書いてない
 - つまり成果がわからない
 - 単位いくらを確認する
 - 一人いくら
 - ゴミ処理1トンいくら
 - 他市との比較
 - 単価毎の違いを比較する
 - 職員は他市との比較を考えないことも多い

- 高い、安い判断ができない
 - 高い時は事情を説明させる
 - 高いからダメではない
- 使える資料
 - 決算審査意見書
 - 行政課題を見つけやすい
 - 突っ込んだ意見も書かれている
 - 複数人が同じことを指摘しているところを見る
 - 毎年書かれているところも
 - 予算編成の留意事項
 - 総務省から
 - 地方財政対策
 - 第三 予算編成の留意事項
 - 各省庁のだしている補助金の情報がある
 - (1741自治体ある 計算する時便利)
 - 議員のお気持ちではなく国がこの事業やってますが、、と聞くと取り組んでもらいやすい
 - 職員は一般公開前に情報を得ている
- 実践的な質問事例と効果的な手法
 - 判断を求められた時の自治体の三つの類型（講師の自説）
 - 前例踏襲型
 - 追求型の質問。情報開示を徹底する
 - 横並び
 - 政策提案型の質問。特性をつかみ、横並びの脱却
 - 先進
 - 進捗管理型の質問。約束を守っているか確認する
 - 逃げ答弁への返し方
 - 検討します
 - 次の議会で結果を聞く
 - 市でできることではない
 - できない法的な理由を教えてください
 - 予算がない
 - いくら足りないのか。見積もり金額を聞く
 - 質問のフレームワーク
 - あるべき像
 - 現状確認
 - 矛盾の指摘
 - 提案

所感

市民の代表である議員のマインドの置き方については、詳しい職員目線ではなく、市民目線での疑問をもつことが重要とのことだった。

有田市の主要施策成果説明書はわかりやすいと何度も話にでた。今後は一層こちらを読み込んで議会に臨もうと思う。

他市町村と比較することができ、新たな発見があった。今後も研修を通じて多くを学びたい。